

次の100年も・・・ここに商工会!!

●第127回(平成22年度第4回)●

# 中小企業景況調査報告書

栃木県商工会地区

平成23年 1月～ 3月・報告

平成23年 4月～ 6月・予想



栃木県商工会連合会



# 目次

	頁
1. 栃木県産業全体の景況概要	3
栃木県と全国の業況D I 推移を比較 ・ 図 1	
県内産業別の業況D I 推移を比較 ・ ・ 図 2	
2. 製造業の景況	4
主要景況項目の推移	・・・ 図 3
売上額(加工高)の状況	・・・ 図 4
採算(経常利益)の状況	・・・ 図 5
設備投資の状況	・・・ 図 6
経営上の問題点	・・・ 図 7
3. 建設業の景況	7
主要景況項目の推移	・・・ 図 8
売上額(完成工事高)の状況	・・・ 図 9
採算(経常利益)の状況	・・・ 図 10
設備投資の状況	・・・ 図 11
経営上の問題点	・・・ 図 12
4. 小売業の景況	10
主要景況項目の推移	・・・ 図 13
売上額の状況	・・・ 図 14
採算(経常利益)の状況	・・・ 図 15
設備投資の状況	・・・ 図 16
経営上の問題点	・・・ 図 17
5. サービス業の景況	13
主要景況項目の推移	・・・ 図 18
売上額(収入高)の状況	・・・ 図 19
採算(経常利益)の状況	・・・ 図 20
設備投資の状況	・・・ 図 21
経営上の問題点	・・・ 図 22
6. 調査対象事業所の内容	16
参考 中小企業基盤整備機構 第123回 中小企業景況調査 ニュースリリース	
[中小企業の業況判断DIの推移]	17

## ○DI 指数とは

本文中やグラフ中に登場するDI 値とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

例えば、売上額で増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%の場合、DI 指数は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを表している。

## 〔 調 査 要 領 〕

### ○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置して、地域の産業の状況等地域の経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を収集、提供して、経営改善普及事業の実施に資するものとする。

本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の業種を、主要景況項目（売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り）から分析し、景況情報をまとめたものである。

### ○調査対象地区

栃木県下の10商工会地区

にのみや・益子町・石橋・岩舟町・塩谷町

喜連川・那須塩原市・那須町・佐野市あそ・足利市坂西

### ○調査対象

対象企業数：上記商工会地区の150企業（1商工会15企業）

回答企業数： 150企業（回答率100.0%）

### ○調査時点

平成23年 3月 1日

### ○調査対象期間

平成23年1月～3月期の実績及び、平成23年4月～6月期の見通しについて調査。（「東日本大震災」の影響は反映されていません。）

### ○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査。

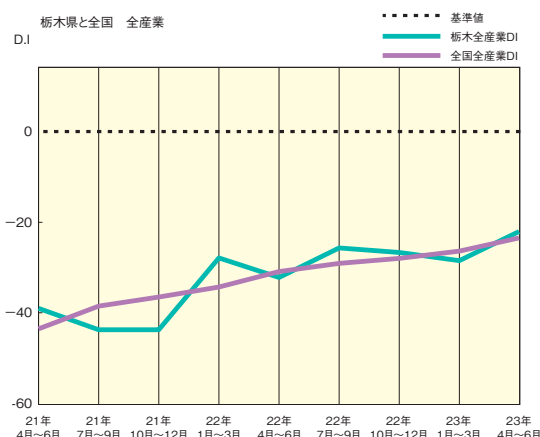
### ○回答企業数内訳

産 業	回答企業数	構成比(%)
製 造 業	30	20.0
建 設 業	27	18.0
小 売 業	40	26.7
サービス業	53	35.3
合 計	150	100.0

# 1. 栃木県産業全体の景況概要

〈栃木県と全国の業況D I 推移を比較〉

「中小企業の業況は持ち直し感が見られる」（前期比） 図 1



中小企業の業況は、引き続き持ち直しの動きがみられる。製造業が3期ぶりにマイナス幅が縮小、建設業、小売業でも改善傾向が見られたが、サービス業が大幅に悪化した。なお、栃木県内の業況D I は、 $-28.4$ ポイントと前期 ( $-26.6$ ポイント) と比べ1.8ポイント低下した。

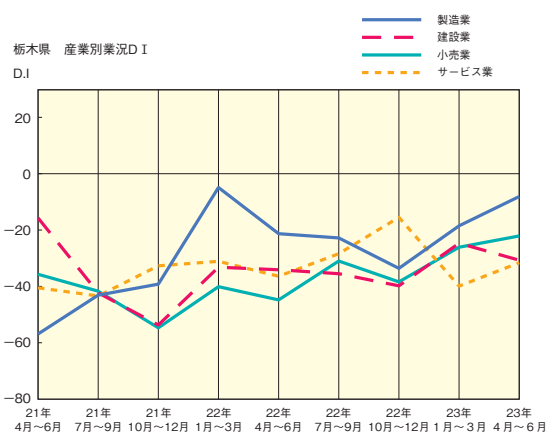
来期見通し（4月～6月）では、全国業況および栃木県業況ともに、D I 値は、やや上昇すると予想している。

※全国業況D I は、独立行政法人中小企業基盤整備機構が公表するニュースリリースから、栃木県業況D I は、商工会議所・中小企業団体中央会が実施する中小企業景況調査を含めた値を利用してグラフ化した。

それぞれ調査時点は同日である。（平成23年3月1日時点の調査であり、「東日本大震災」の影響は反映されていない。）

〈県内産業別の業況D I 推移を比較〉

「サービス業で下降(マイナス幅が拡大)」 (前年同期比) 図 2



「サービス業」前期と比べ $-24.4$ ポイント ( $-15.6$ ポイント $\rightarrow$  $-39.9$ ポイント) とD I 値が低下し、マイナス幅が拡大した。一方、「製造業」「建設業」「小売業」は、前期と比べD I 値が10ポイント以上、上昇している。

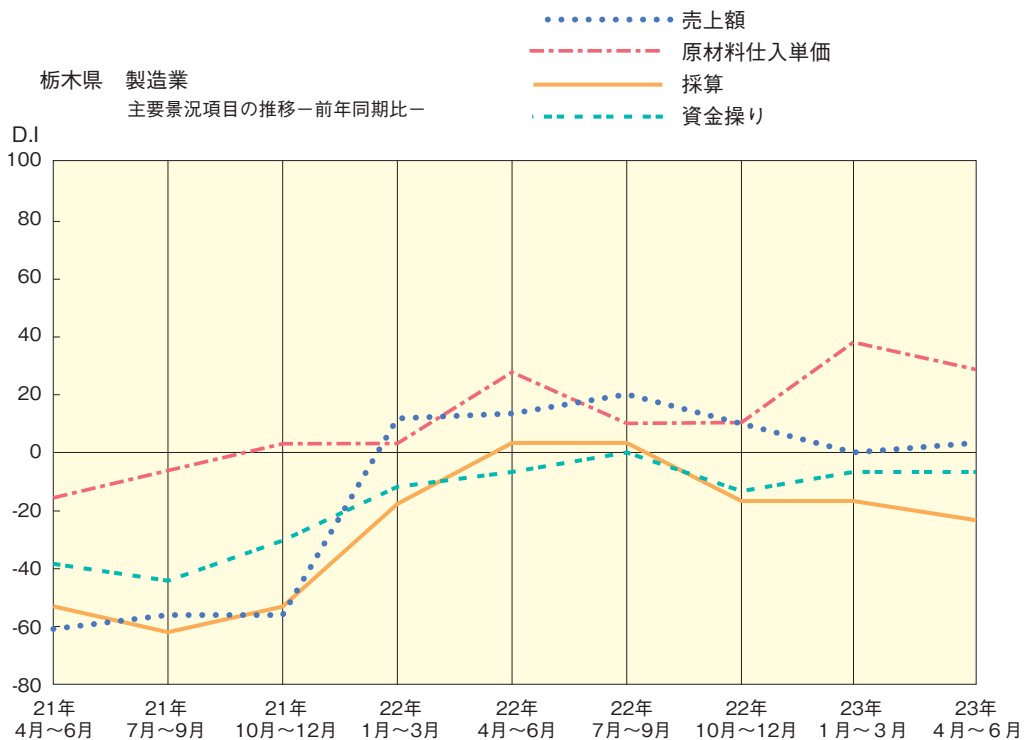
来期見通しでは、「製造業・小売業・サービス業」は、D I 値が上昇し、「建設業」は低下を予想している。

## 2. 製造業の景況

－主要景況項目の推移－

「売上が弱含みに推移し、採算も停滞感を示している」

製造業 主要項目の推移（前年同期比） 図3



「売上額(加工高)」は、前期からさらに低下し、D I 値は0.0ポイント(9.9ポイント→0.0ポイント)となった。さらに、「原材料仕入単価」は、前期から大きく上昇し、37.9ポイント(10.3ポイント→37.9ポイント)となった。また、「資金繰り」は-6.7ポイント(-13.3ポイント→-6.7ポイント)と、やや改善傾向を示している。

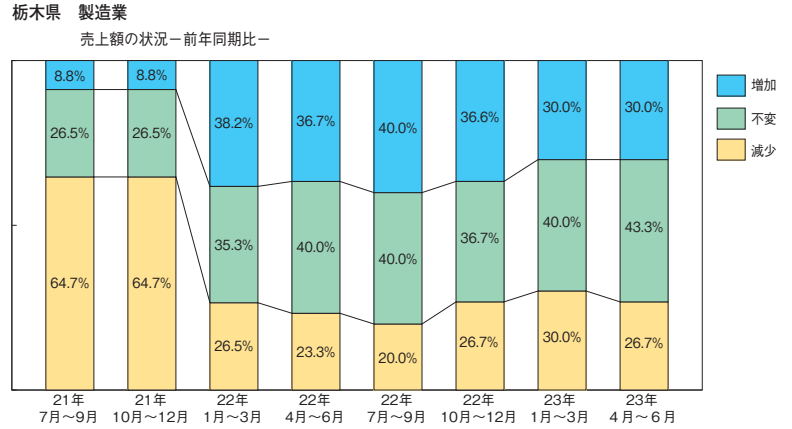
来期の見通しでは、「売上額(加工高)」が増加に転じるが、「採算(経常利益)」は悪化すると予想している。

－売上額(加工高)－

売上額(加工高)の状況(前年同期比) 図4

今期D I 値の内訳を見ると、減少企業が30.0%、増加企業が30.0%で、D I 値は0.0ポイントであった。前期と比べ、9.9ポイント低下した。(9.9ポイント→0.0ポイント)

来期の見通しは、売上減少と予想する企業がやや減り(30.0%→26.7)、売上増加と予想する企業は同数値(30.0%→30.0%)であることから、若干の改善を予想している。

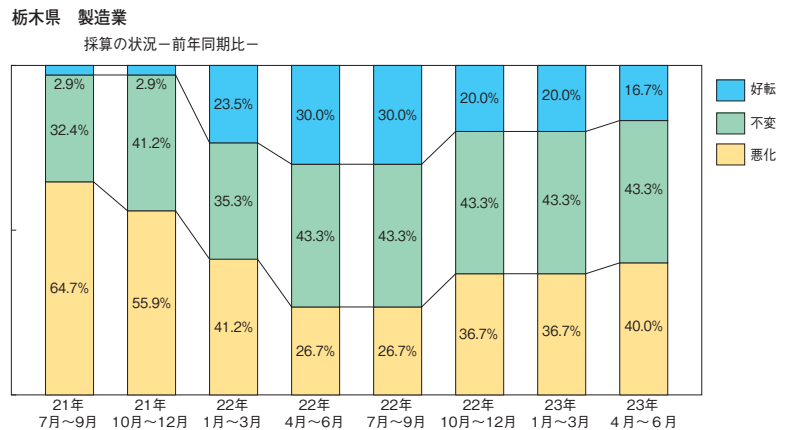


－採算(経常利益)－

採算(経常利益)の状況(前年同期比) 図5

今期D I 値の内訳を見ると、悪化企業が36.7%、好転企業が20.0%で、D I 値は-16.7ポイントと、前期と同じ値を示した(-16.7ポイント→-16.7ポイント)。

来期の見通しは、マイナス値がやや大きくなる見込みである。

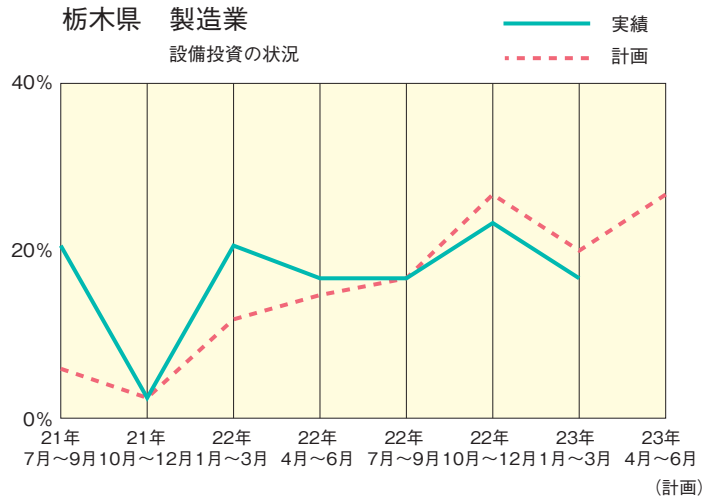


—設備投資の状況—

設備投資の状況 図6

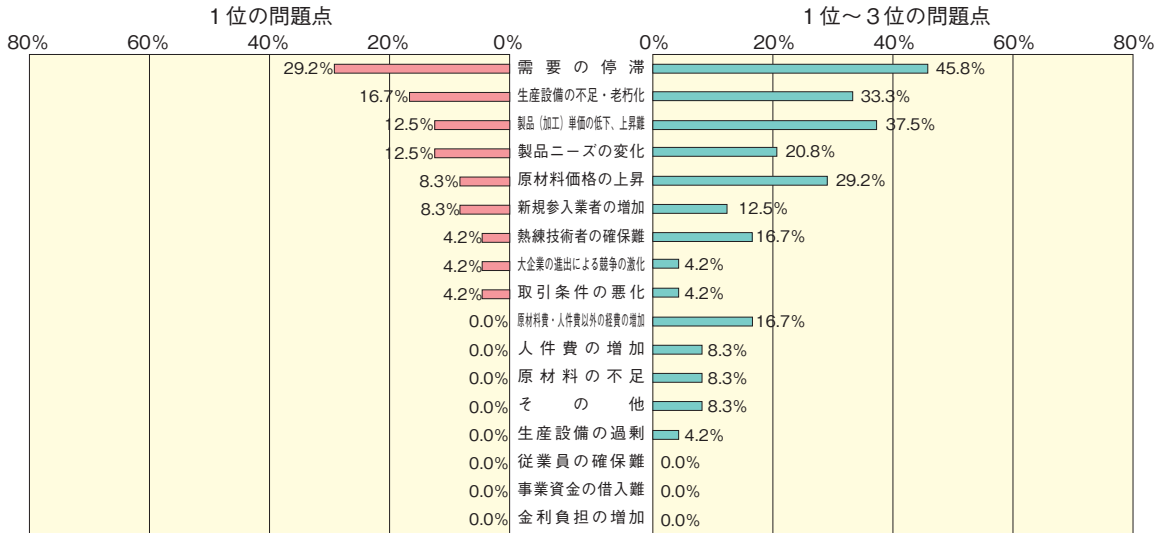
今期の設備投資の状況は、計画していた企業割合20.0%に対し、実績は16.7%であった。

来期に設備投資を計画している企業は26.7%である。



—経営上の問題点—

栃木県 製造業 経営上の問題点の状況 図7



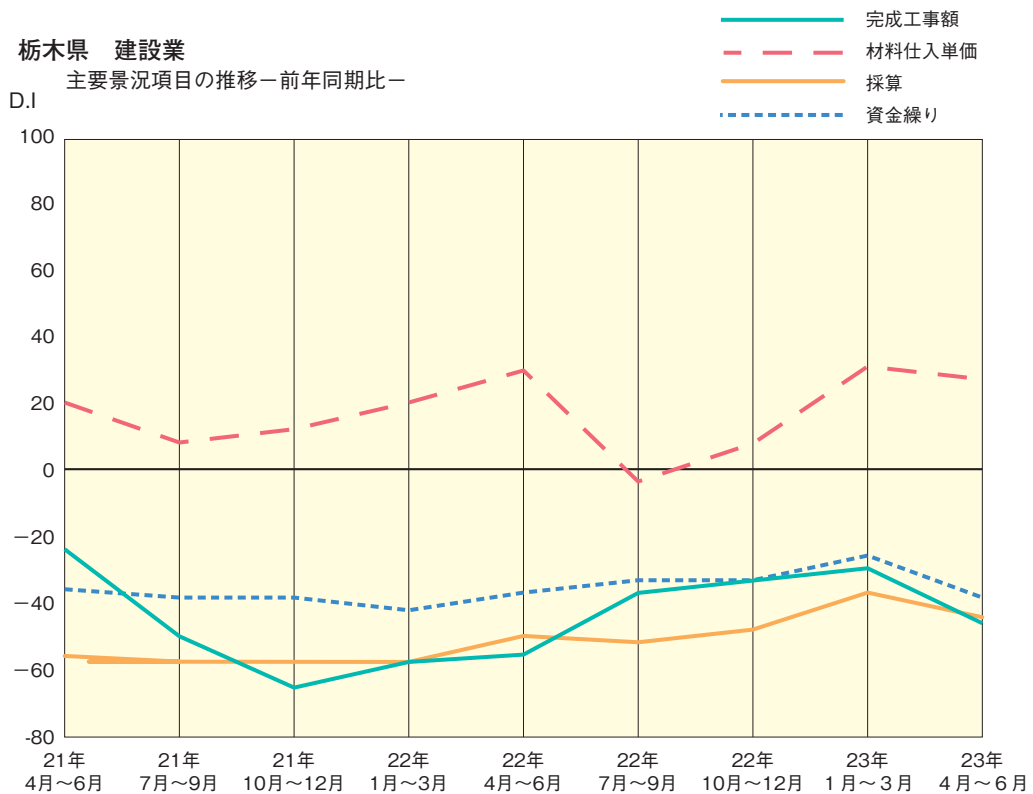
1位の問題点を見ると、「需要の停滞」が最も多く29.2%となっている。また、「生産設備の不足・老朽化」「製品(加工)単価の低下、上昇難」「製品ニーズの変化」が上位に挙げられている。

### 3. 建設業の景況

－主要景況項目の推移－

「持ち直し感はあるものの、材料価格の高騰が見られる」

建設業 主要項目の推移（前年同期比） 図8



「売上額(完成工事額)」は前期比+3.7ポイント(-33.4ポイント→-29.7ポイント)と5期連続でD I 値が上昇した。また、「材料仕入単価」は前期比+23.1ポイント(7.7ポイント→30.8ポイント)と大きく上昇し、材料の価格高騰が見られる。

来期見通し(D I 値)では「売上額(完成工事額)」は大幅に減少(-29.7ポイント→-45.2ポイント)となり、「採算(経常利益)」についても悪化(-37.0ポイント→-44.4ポイント)すると予想していることから、受注量の減少が窺える。

－売上額(完成工事高)－

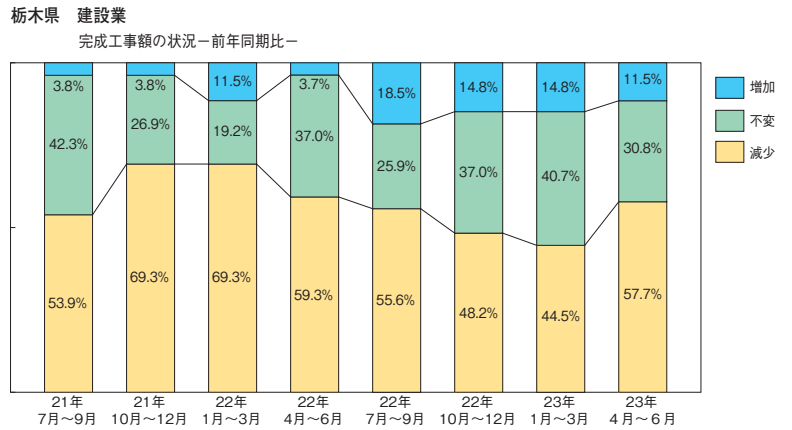
売上額(完成工事高)の状況(前年同期比) 図9

今期D I 値の内訳を見ると、減少企業が44.5%、増加企業が14.8%で、D I 値は-29.7ポイントであり、前期と比べ、3.7ポイント上昇した。

来期の見通しは、売上増加と予想する企業が横ばいである。

(14.8%→14.5%)

一方、減少を予想する企業が増え(44.5%→57.7%)、D I 値は、-45.2ポイント(今期-29.7ポイント)と低下を予想している。

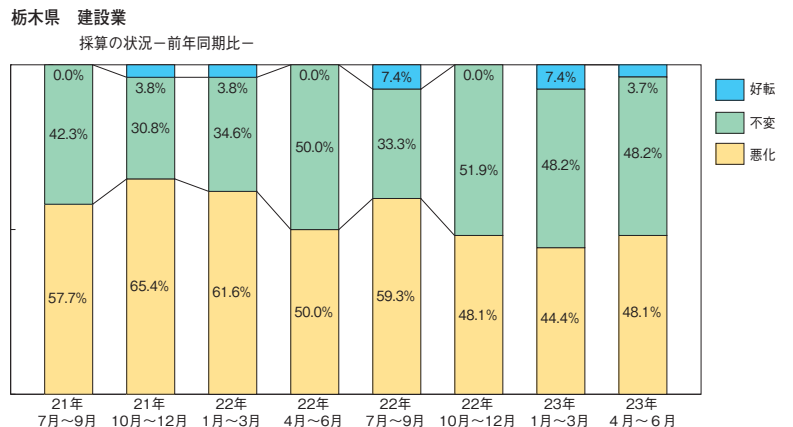


－採算(経常利益)－

採算(経常利益)の状況(前年同期比) 図10

今期D I 値の内訳を見ると、悪化企業が44.4%、好転企業が7.4%で、D I 値は-37.0ポイントであった。前期と比べ、11.1ポイント上昇した。

来期の見通しは、採算悪化と予想する企業が増え(44.4%→48.1%)、D I 値は低下(前期比-7.4ポイント)するとみている。

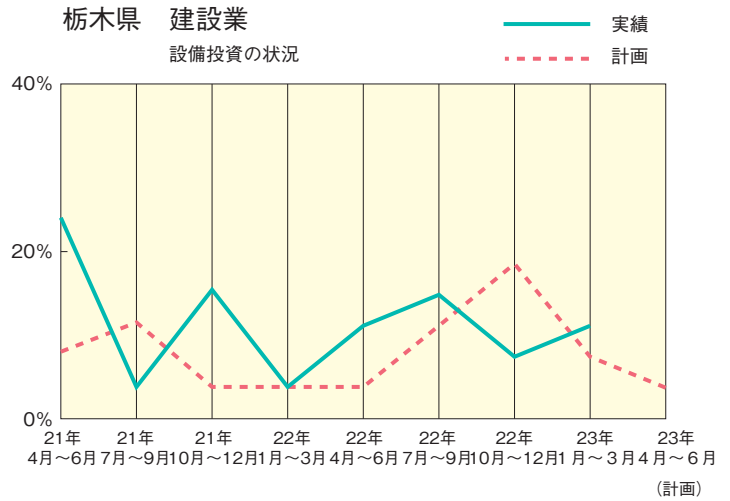


一設備投資の状況一

設備投資の状況 図11

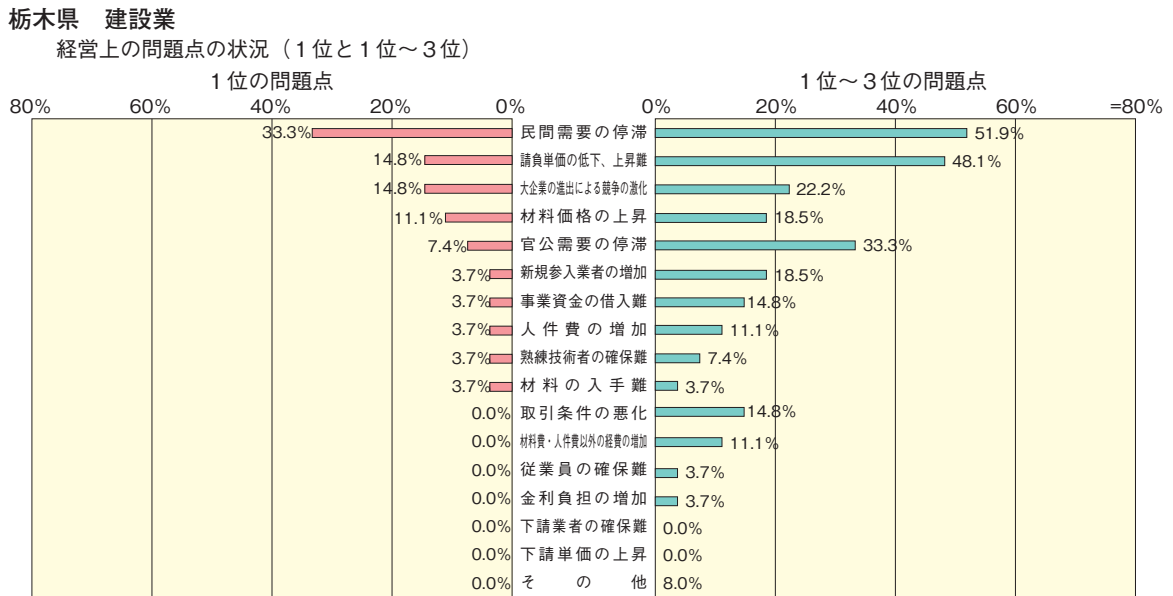
今期の設備投資の状況は、計画していた企業が7.4%、実績は11.1%であった。

来期に設備投資を計画している企業は3.7%である。



一経営上の問題点一

経営上の問題点の状況 図12



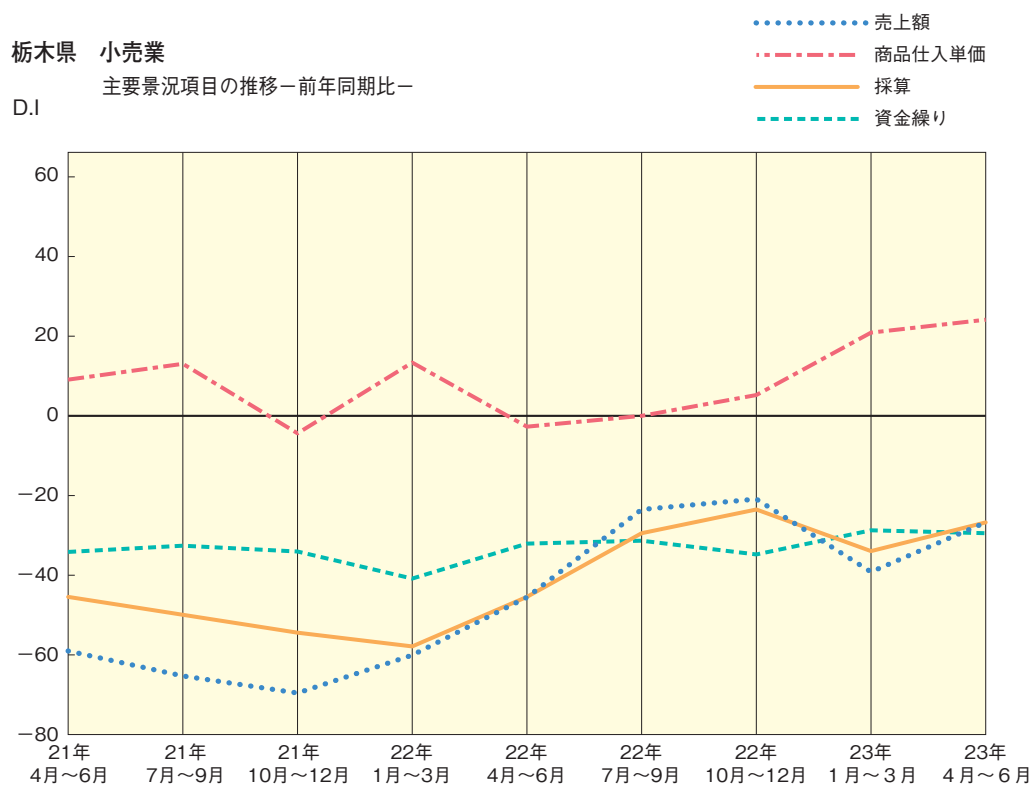
1位の問題点では、「民間需要の停滞」が挙げられた。また、1位～3位の問題点をみても「民間需要の停滞」を挙げている企業が最も多く、次いで「請負単価の低下、上昇難」、「官公需要の停滞」が上位に挙げられている。

## 4. 小売業の景況

－主要景況項目の推移－

「持ち直し基調を維持できず、今期売上額・採算が低下」

小売業 主要項目の推移（前年同期比） 図13



「売上額」は前期と比べ-17.5ポイント（-20.0ポイント→-37.5ポイント）、「採算（経常利益）」も前期比-10.0ポイント（-22.5ポイント→-32.5ポイント）と低下し、「商品仕入単価」は前期と比べ+15.0ポイント（+5.0ポイント→+20.0ポイント）の上昇となり、持ち直し基調を維持できなかった。

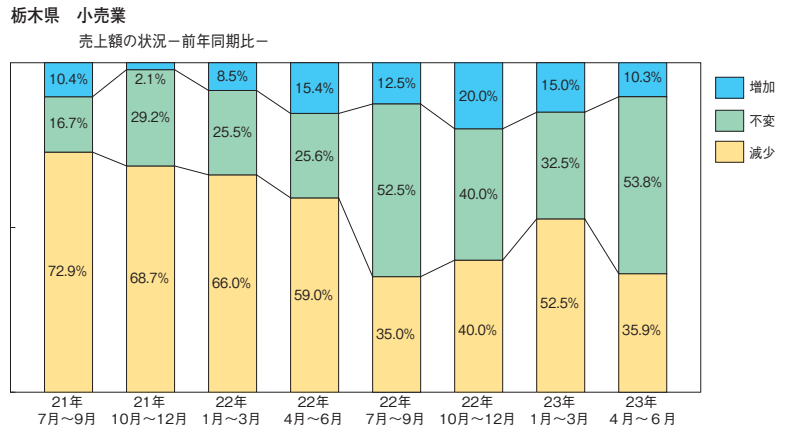
来期見通し（D I 値）では、「売上額」「採算（経常利益）」は改善すると予想している。

—売上額—

売上額の状況（前年同期比） 図14

今期D I 値の内訳を見ると、減少企業が52.5%、増加企業が15.0%で、D I 値は-37.5ポイントと、前期と比べ、17.5ポイント低下した。

来期の見通しは、D I 値-25.6ポイントと今期と比べ +11.9ポイント上昇し、売上減少と予想する企業が大幅に減る（52.5%→35.9%）ことから、回復すると予想していることが窺える。

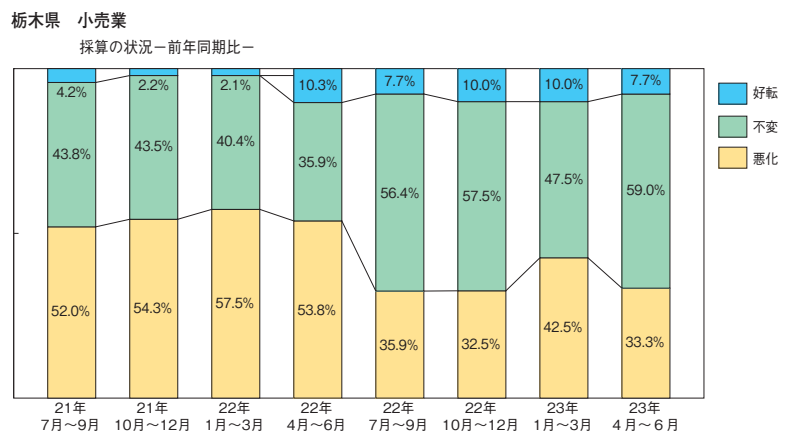


—採算（経常利益）—

採算（経常利益）の状況（前年同期比） 図15

今期D I 値の内訳を見ると、悪化企業が42.5%、好転企業が10.0%で、D I 値は-32.5ポイントであった。前期と比べ、10.0ポイント低下した。

来期の見通しは、D I 値-25.6ポイントと今期(-32.5ポイント)と比べ、採算悪化を予想する企業が減る（42.5%→33.3%）ことから、改善に向かうものと見ている。

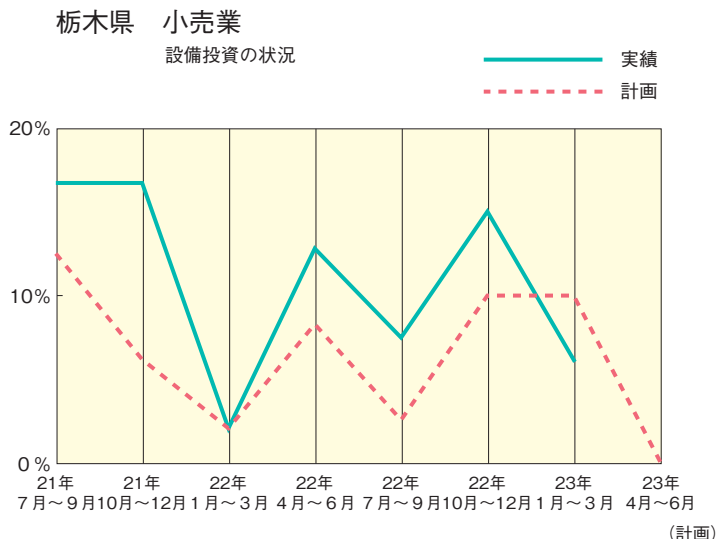


—設備投資の状況—

設備投資の状況 図16

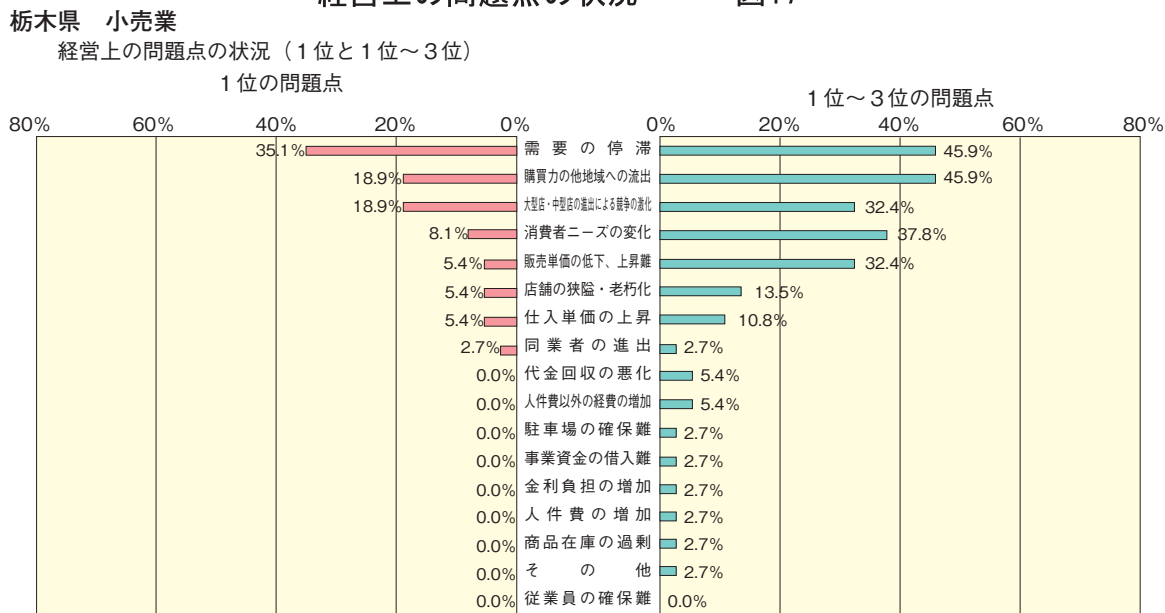
今期の設備投資の状況は、計画していた企業割合10.0%に対し、実施割合は7.5%であった。

来期に設備投資を計画している企業は0.0%と先行きの不透明感からか、投資意欲は凍結状態である。



—経営上の問題点—

経営上の問題点の状況 図17



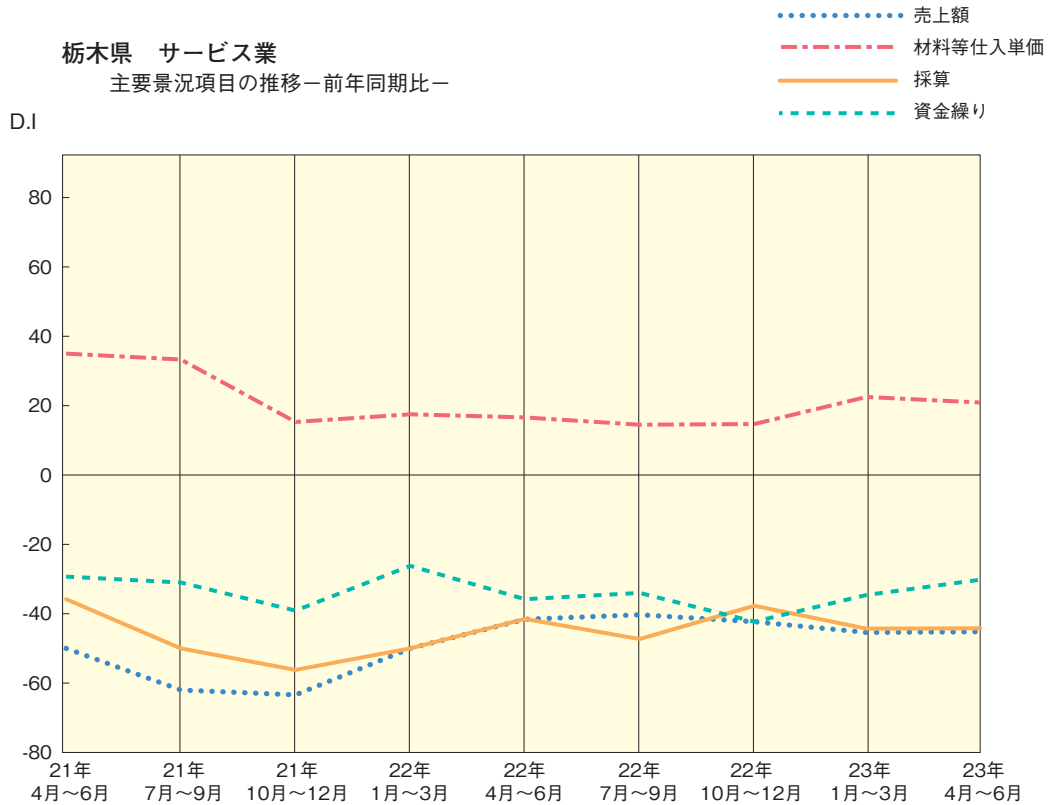
1位の問題点を見ると、「需要の停滞」がトップに挙げられる。また、1位～3位の問題点を見ると、「購買力の他地域への流出」、「消費者ニーズの変化」が上位を占めている。

## 5. サービス業の景況

—主要景況項目の推移—

「売上額・採算はやや低下傾向」

サービス業 主要項目の推移（前年同期比） 図18



「売上額」は前期比-3.1ポイント（-42.3ポイント→-45.4ポイント）とマイナス幅が微増ながら拡大した。

来期見通し（D I 値）では、「売上額」「採算（経常利益）」とも、動きは弱く、ほぼ同水準と予想している。

「資金繰り」は前期比+8.3ポイント（-42.3→-34.0）と改善傾向にあり、来期見通しでも、さらに好転すると予想している。

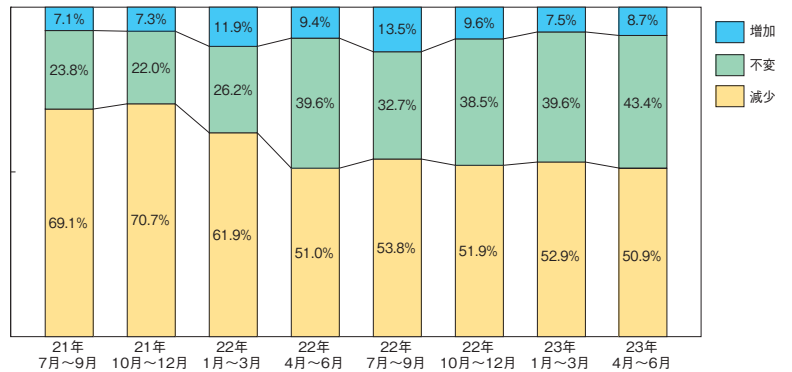
## —売上額(収入高)—

売上額(収入高)の状況(前年同期比) 図19

今期D I 値の内訳を見ると、減少企業が52.9%、増加企業が7.5%で、D I 値は-45.4ポイントであった。

前期と比べ、3.1ポイント低下している。

来期の見通しは、減少企業が(52.9%→50.9%)、増加企業が(7.5%→8.7%)と、改善するものと予想しているものの、D I 値をみると今期と同水準(-45.4ポイント→-42.2ポイント)とみている。

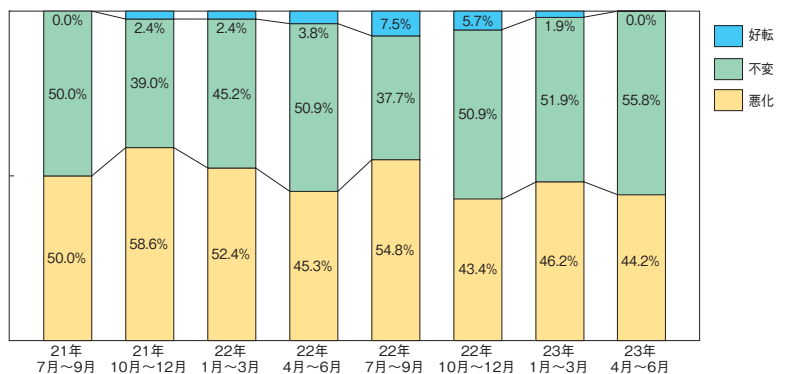
栃木県 サービス業  
売上額の状況-前年同期比-

## —採算(経常利益)—

採算(経常利益)の状況(前年同期比) 図20

今期D I 値の内訳を見ると、悪化企業が46.2%、好転企業が1.9%で、D I 値は-44.3ポイントであった。前期と比べ、6.6ポイント悪化した。

来期の見通しは、採算好転と予想する企業が減少(1.9%→0.0%)するものの、悪化企業も減少(46.2%→44.2%)することから、D I 値は-44.2ポイントと今期とほぼ横ばいで推移するとみている。

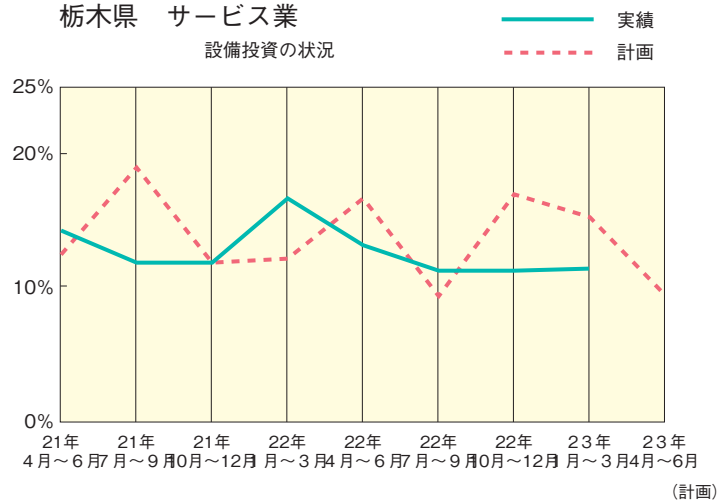
栃木県 サービス業  
採算の状況-前年同期比-

一設備投資の状況一

設備投資の状況 図21

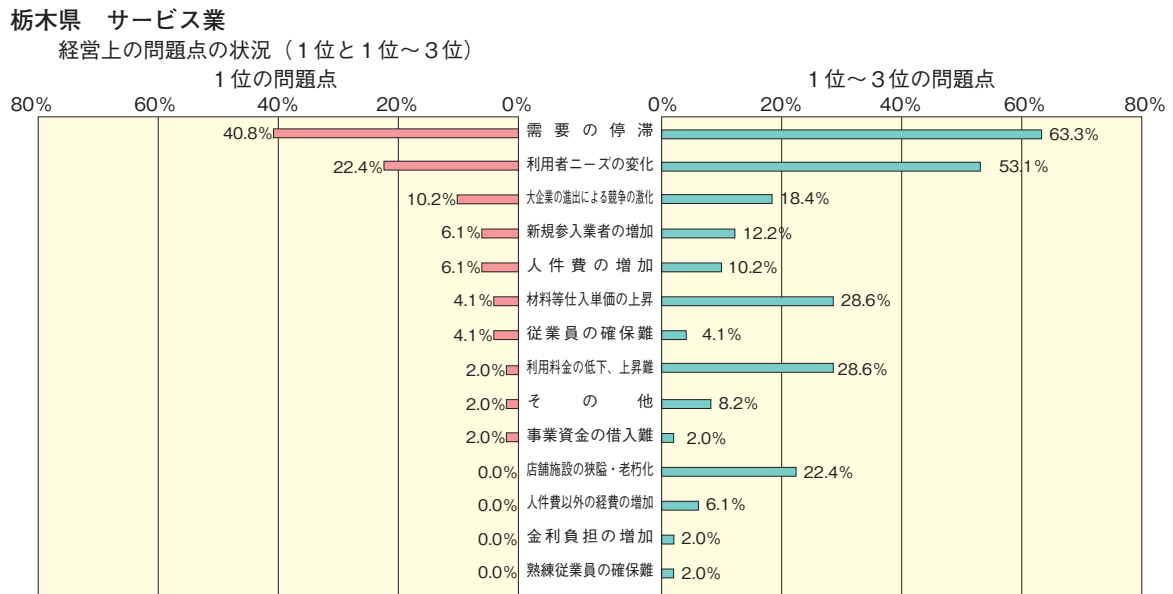
今期の設備投資の状況は、計画していた企業割合15.1%に対し、実施割合は11.3%であった。

来期に設備投資を計画している企業は9.4%である。



一経営上の問題点一

経営上の問題点の状況 図22



1位の問題点を見ると、「需要の停滞」がトップに挙げられる。また、1位～3位の問題点でも、「需要の停滞」が大きな問題点として挙げられ、「利用者ニーズの変化」「材料等仕入単価の上昇」「利用料金の低下、上昇難」が続いている。

## 【調査対象事業所の内容】

### 〈製造業〉

#### 業種別内訳 30事業所

業種	事業所数	割合%
食料品製造業	8	26.7
飲料・飼料・たばこ製造業	0	0.0
繊維工業	0	20.0
衣服・その他繊維製品製造業	1	3.3
木材・木製品製造業	1	3.3
家具・装備品製造業	1	3.3
パルプ・紙・紙加工品製造業	0	0.0
印刷・同関連業	1	3.3
化学工業	1	3.3
プラスチック製品製造業	3	10.0
窯業・土石製品製造業	2	6.7
金属製品製造業	3	10.0
一般機械器具製造業	2	6.7
電機機械器具製造業	2	6.7
輸送用機械器具製造業	4	13.3
精密機械器具製造業	0	0.0
その他の製造業	1	3.3

#### 従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	5	16.7
3人以下～5人以下	2	6.7
6人以下～10人以下	5	16.7
11人以下～20人以下	11	36.7
21人以下～50人以下	4	13.3
51人以下～100人以下	1	3.3
101人以上	2	6.7

### 〈建設業〉

#### 業種別内訳 27事業所

業種	事業所数	割合%
総合工事業	14	51.9
職別工事業	8	29.6
設備工事業	5	18.5

#### 従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	10	37.0
3人以下～5人以下	5	18.5
6人以下～10人以下	7	25.9
11人以下～20人以下	5	18.5
21人以下～50人以下	0	0.0
51人以下～100人以下	0	0.0
101人以上	0	0.0

### 〈小売業〉

#### 業種別内訳 40事業所

業種	事業所数	割合%
各種商品小売業	4	10.0
織物・衣服・身の回り品小売業	4	10.0
飲食料品小売業	16	40.0
自動車・自転車小売業	2	5.0
家具・建具・じゅう器小売業	0	0.0
その他小売業	14	35.0

#### 従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	30	75.0
3人以下～5人以下	7	17.5
6人以下～10人以下	2	5.0
11人以下～20人以下	0	0.0
21人以上	1	2.5

### 〈サービス業〉

#### 業種別内訳 53事業所

業種	事業所数	割合%
一般飲食業（一般・遊興）	15	28.3
宿泊業	5	9.4
運輸業	3	5.7
自動車整備業	6	11.3
洗濯・理美容業	15	28.3
その他サービス業	9	17.0

#### 従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	34	64.1
3人以下～5人以下	8	15.1
6人以下～10人以下	7	13.2
11人以下～20人以下	2	3.8
21人以上	2	3.8

---

第 1 2 7 回 中 小 企 業 景 況 調 査 報 告 書

---

平成 2 3 年 1 月 ~ 3 月 期 報 告

平成 2 3 年 4 月 ~ 6 月 期 予 想

平成 2 3 年 5 月 発 行

編 集 : 栃 木 県 商 工 会 連 合 会 経 営 の 見 え る 課

発 行 所 : 栃 木 県 商 工 会 連 合 会 栃 木 県 宇 都 宮 市 中 央 3 丁 目 1 番 4 号

TEL 028-637-3731 FAX 028-637-2875

印 刷 所 : (株) 松 井 ビ ・ テ ・ オ ・ 印 刷

---

